

相生学院高加古川校ボクシング部



練習に励むボクシング部員たち—相生学院高校加古川校

私立相生学院高校加古川校(加古川市加古川町北在家)のボクシング部が、5月末の県高校総合体育大会で団体優勝した。今春まで部員が1人だけだったが、ボクシング経験のある1年生3人が入学して一挙に力をつけ、創部3年目で初の栄冠をつかんだ。

4人の拳で初の栄冠

創部3年・部員ゼロから再起

県高校総体のボクシング競技は5月27、28日、西宮市内の高校であり、加古川校からは1年生3人と2年生1人の計4人が出場。体重別の個人戦で4人はいずれも準優勝だったが、総合点では参加14校中のトップ。神戸朝鮮高級学校の団体3連覇を阻んだ。

加古川校ボクシング部は、昨年4月に発足したが、まもなく部員ゼロに。昨年現在は現在2年生の勝江仁君(17)ら3人が入部したが、2人が夏までに退部。残った勝江君もやめたくなって練習を休むこともあったが、強くなりたいたいとの思いで続けてきたという。

今年には林己介君(16)、山内祐季君(15)、横田一磨君(15)の3人が入部。山内君は加古

県高校総体 全国レベル新入生 即戦力に

川市立別府中学時代、U-15全国大会で3連覇するなど、3人ともボクシングジムで腕を磨いてきた経験者だ。

相生学院は通信制教育だが、スポーツコースの生徒は通学して授業を受けている。ボクシング部は日曜を除く毎朝、加古川校の練習場で2時間以上基礎練習。放課後は4人ともそれぞれが所属するジムに通って練習に励んでいる。

高校総体の全国大会へは、団体優勝だけでは出場できず、個人戦で優勝することが必要になる。

主将の勝江君は「1人ででもがんばってきてよかった。来年は全員が個人戦でも優勝できるようにしたい」と、さらに飛躍を誓っている。

水川典明監督(53)は「4人ともプロを目指している。高校生として勉強しながら練習を続けることが、将来役に立つはずだ」と話す。

(平賀正弘)